

令和2年度地域医療構想調整会議	資料
令和3年1月	7

松本市立病院移転改築について

松本市立病院 事業管理者
北野 喜良

1 はじめに

松本市立病院の現在の建物の主要部は、1985年に現在の場所に新築移転しました。年と共に老朽化が進み、快適な診療環境を提供できなくなり、2012年より病院移転改築についての検討が始まりました。2014年度に宮地エンジニアリング工場跡地が候補として挙がってから、建設事業が具体的に進展し、2015年には「松本市立病院整備のあり方に関する将来構想」が策定され、2018年3月に「松本市立病院建設基本計画」が策定されました。ここまでは順調な経過のように思われました。

しかし、病院経営は2014年度より赤字決算となり、抜本的な経営改革に取り組むため、2018年8月に建設事業は一旦延期となりました。また、2020年3月に建設予定地は白紙の状態となり、病院建設事業は暗礁に乗り上げてしまいました。5年連続赤字決算となっていました。小口壽夫特命参与の指導により経営改革がなされ、2019年度は黒字決算の見通しとなり、2020年6月市議会で病院建設事業の再開が了承されました。

ここでは、事業再開後の進捗状況について報告いたします。

2 再開後の経過

2020年3月に松本市病院事業管理者が着任し、コロナ禍ではありましたが、新病院建設を目指して同年5月に、病院局内に建設プロジェクトチームを組織しました。松本広域圏で唯一の公立病院としての役割、耐震機能、病院規模、建設場所、将来を見据えたあるべき姿を検討するとともに、「どんな病院にしたいか、するか」全職員から意見・考えを聞いて集約・発表・議論を繰り返し、ボトムアップで建設基本計画をまとめました。並行して2018年3月に策定された「松本市立病院建設基本計画」の見直しも行い、「松本市立病院建設基本構想」を策定し、2020年12月16日に市長に提出しました。

一方、東京都健康長寿医療センター理事長を座長とした「松本市立病院建設専門者会議」が設置されました。2020年8月より4回の会議が開催され、「松本市立病院建設に関する専門者会議提言」が2020年12月21日に提出されました。以後、松本市立病院建設庁内調整会議で検討が行われています。

3 基本構想と提言の内容

松本市立病院が策定した「松本市立病院建設基本構想」については、病院ホームページに掲載されていますのでご覧ください。新病院構想のイメージ図もご覧いただけるかと思えます。

また、「松本市立病院に関する専門者会議提言」と議事録は、松本市ホームページに掲載されていますので、ご覧いただければと思います。

4 建設候補地について

建設候補地については、現在、波田中央運動公園と波田保健福祉センター周辺の2箇所に絞り込まれています。さらに比較検討・協議し、今年度内に決定する予定です。但し、松本市の新型コロナウイルス感染警戒レベルが5に引き上げられ、特別警報が発出されている状況で選定が遅れる可能性は否めません。

5 「松本市立病院建設基本構想」と「松本市立病院建設に関する専門者会議提言」の一致点と相違点について

松本市立病院建設庁内調整会議で、松本市立病院が策定した「松本市立病院建設基本構想」(以下、基本構想)と「松本市立病院建設に関する専門者会議提言」(以下、提言)を突合し、松本市としての基本構想を策定する方針で検討が行われています。

(1) 基本構想と提言の一致点

需要予測、地域における役割、一般診療(がん医療)、周産期医療、小児医療、高齢者医療、救急・災害医療、予防医療・健診、財務状況と経営方針については、差異はあるものの方向性についての認識は同じと思えます。

(2) 基本構想と提言の相違点

主な相違点としては、一般診療(診療科)、終末期医療、病院の規模・機能・構造が挙げられると思えます。特に病床数については、基本構想では「地域医療構想ガイドラインに基づく必要病床数の算出結果に基づき 191床」、提言では「開院から10年後の医療需要予測等により、感染症病床を含め 166床」と乖離があり、議論が必要と思えます。

6 今後のスケジュールについて

松本市立病院建設庁内会議で検討を進め、市民向けの説明会を開催するとともに、パブリックコメントを実施し、松本市としての基本構想、さらに建設基本計画を策定していく予定です。コロナ禍で事業を進めていくこともあり、着工、完成の時期については未定です。

(2021年1月21日作成)